

○内谷重治市長 お答えを申し上げますが、後期計画の策定ということなのですが、後期計画の策定というよりも若干の修正で、それについては、例えば旧第二庁舎は取り壊したわけですね。しかも、あれは単独だったやつを補助事業で5割の補助を受けて、あと、旧庁舎、あれらについても対象にしたと。そして、それにすみれ学園、これ建て直ししなきゃいけなかったんですが、これが今回の都市構造再編集中支援事業という5割の補助で建てられるというような見通しが立ったので説明があったと思うんですが、それらの軽微な変更だけでございまして、全体的には市役所の旧庁舎と第二庁舎を単独で恐らく2億円以上かかったものが、半分の補助でできる。あと、今回のすみれ学園も、多分そんなに金額は大きくないので、金額的には軽微なものだと思っております。5億円、10億円って、そういう単位ではございませんので。あとは長井南・北中については、今年と来年度の2か年で中規模程度の改修で終わるといことの変更でありますので、大きな変更ではないと思っております。あと、残りが令和5年、令和6年、令和7年の3か年になりますけども、そんな考えでいるところでございます。

○浅野敏明議長 13番、小関秀一議員。質問は終わります。

○13番 小関秀一議員 時間ありませんので、今、市長からあったように、後期の工期、あと残り3年の中で取り残された公共施設の整備、財源というか、予算も含めていろんな課題があるかと思えます。提示されましたらば、私ども議論したり、課題整理をさせていただくということになろうかと思っておりますので、お待ちします。よろしくお願いいたします。今日は以上で質問を終わります。

鈴木 裕議員の質問

○浅野敏明議長 次に、順位9番、議席番号4番、鈴木 裕議員。

(4番鈴木 裕議員登壇)

○4番 鈴木 裕議員 皆さん、お疲れさまです。

一般質問2日目の今日4番目、清和長井の鈴木 裕です。一括質問一括答弁方式で質問をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

質問に入る前ですが、内谷市長は5期目当選なされ、今後4年間の市政運営を長井市民から負託を受けたこととなります。4期目の中では、新給食共同調理場の建設、長井市民文化会館の大規模改修工事、新市庁舎建設を完遂され、現在、公立置賜長井病院の新築整備、図書館と子育て支援の公共複合施設「くるんと」の建設が進められ、令和5年度には完成の運びとなっております。

また、本町の街路事業も終盤を迎え、来年度完了に向けて中央十字路の整備工事が急ピッチで進められております。

このような多数のインフラ整備を多額の財政措置が必要な事業であるにもかかわらず、市民生活向上のために短期間で推進されてきた、その手腕は誰もが認めるところでないかと思えます。

ただ、これから4年を見据えたとき、歯止めがかからない少子化対策、終息しない新型コロナウイルス感染症への対応、デジタル社会に呼応するスマートシティの取組など、市政の課題は山積しております。

さらには、たくさんのハード事業を実施してきたことから、未来の子供たちにつけを残さない財政運営も重要なことでもあります。

市長には、若者が希望の持てる長井を目指し、今後4年間、市政のかじ取りをしっかりとさせていただくよう期待しております。

今日の質問は1件、送迎バスの園児置き去りを防ぐ対策についてと題し、質問させていただきます。

それでは、質問に移らせていただきます。

通園のための送迎バスに取り残され置き去りにされた園児が、バスの中で熱中症により死亡する事件が、昨年7月に福岡県中間市で、本年9月には静岡県牧之原市で立て続けに発生しました。園の職員のちょっとした確認不足が重なり、幼い命が失われたわけで、非常に涙ぐましく残念な出来事でありました。両親やご家族のことを察するに、誠に痛ましい出来事でありました。

昨年の中間市の双葉保育園の事件では、業務上過失致死罪に問われた当時の園長と保育士は、先日、福岡地裁で、当然果たすべき基本的な注意義務で、怠った過失は重いとして、3年の執行猶予つきながら禁錮2年と禁錮1年6か月の厳しい有罪判決となりました。

そこで、このような事件が二度と起こらないように、本市としても対策を講じる必要があると思ひまして、次の質問をさせていただきます。

1つ目、本市において、事故にはならないまでも送迎バスでの園児の置き去りの事案が過去になかったかを子育て支援課長に伺います。

2つ目、全国には保育所や幼稚園などの送迎バスが合わせておよそ4万4,000台あるようです。本市にある保育園や幼稚園など、幼児を預かる市及び民間施設の送迎バスの台数は何台ありますか。その中で安全マニュアルを作成している施設の状況はどうなっているか、子育て支援課長に伺います。

3つ目、安全マニュアルには、安全運転管理者の業務とか安全運転についてなどを定めているかと思ひます。その中で置き去りを未然に防ぐためのマニュアルを定めているところはあるのかどうか、子育て支援課長に伺います。

4つ目、政府は、このような痛ましい事件が

二度と起こらないように、再発防止策として、1つ、所在地確認、安全装置……。

○浅野敏明議長 鈴木 裕議員に申し上げます。

子育て推進課長なので、間違わないようお願いいたします。

○4番 鈴木 裕議員 失礼しました。子育て推進課長にお願いします。失礼しました。

4つ目、政府はこのような痛ましい事件が二度と起こらないように、再発防止策として、1つ、所在地確認、安全装置義務づけ、2つ、安全装置の使用ガイドライン作成、3つ目、安全管理マニュアルの作成、4つ目、総合経済対策に盛り込み、財政措置を行うこととしています。

送迎バスへの安全装置を義務づけし、その仕様についてはガイドラインを作成することとありますが、安全装置としてどのようなものが想定されるのかを子育て推進課長に伺います。

スマートシティに取り組む本市でありますから、ITやAIなど、デジタル社会を見据えた安全装置を検討しているのであれば、ぜひご紹介ください。

5つ目です。さきに申し上げたとおり、政府は送迎バスに安全装置を取り付けるための補助金を財政措置するようではありますが、今国会で審議している総合経済対策に盛り込み、国の補正予算に計上されるのでないかと思ひます。県内では、南陽市がいち早く本年度中の導入完了を目指して準備を進めているとの報道がありました。国の方向性に沿って装置を導入する方針で、関連予算を市議会臨時会で可決されております。

ほかに、寒河江市では本年度内の設置完了を見据えて調整中であり、朝日町はバス後方に取り付けるブザーを整備する方針を示し、12月定例会に関連予算案を提示する考えがあるとのことです。

本市は、安全装置を取り付けるための事業を行うとして、いつ頃をめどに実施され、完了す

るつもりなのか、市長にお伺いします。

本年度中に補正予算で予算化する予定があるのか、また、新年度予算で対応するのかを市長に伺います。

3つ目の質問です。園児置き去りの事件は、ヒューマンエラー、ポカミス、うっかりミスが重なったものと言えます。究極的には、複数の職員のちょっとした確認不足が重なったことが要因です。こうしたことが再発しないようにと、政府は送迎バスへの安全装置取付けを義務化することなのですが、やはり安全装置は職員の行う確認作業を補完する装置と認識するのが妥当であると考えます。

つまり園児の安全は施設の職員が命を預かるという使命と責任においてなされるべきであって、安全装置はあくまでも補完装置という認識でなければならないと考えます。最も重要なことは、送迎に関わる職員に対して、教育と訓練を日常的に行うことであり、施設全体で園児の命を預かっていることの重要性と使命感を絶えず啓蒙していくべきでないかと思いますが、市長の見解を伺います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木 裕議員のご質問にお答えいたします。

まず冒頭、鈴木 裕議員からは、このたびの私の5期目の無投票当選に対しまして、しっかりと市民の負託に応えて精進するよにというご鞭撻をいただきました。ありがとうございました。

ぜひ、今後ともご指導賜りますようお願いいたします。

それでは、私からは2点ほどお答えをさせていただきます。

送迎バス、園バスに取り残された園児が熱中症で死亡する事件が、昨年、今年と発生してい

ると。このような事件を防ぐために、長井市はどのような対策を講じるのかを問うということで、私から(5)の政府は安全装置設置費用に対し、財政措置を行い、補助する意向のようであるが、本市はいつ頃をめどに設置を完了する予定か、また、新年度予算に計上するのかというご質問でございます。

国から示された令和4年度の第2次補正予算案の中に、送迎バスへの安全装置の導入支援が盛り込まれておりまして、今後、具体的な基準等が示された段階で、速やかに補正予算の計上を考えておりますので、議員の皆様には改めてお諮りいたしまして、できるだけ早い時期にその対応を行ってまいりたいと思っております。今回の最終日提案等々もあり得るのかなと考えているところでございます。

2点目の(6)園児置き去りの事件は、ヒューマンエラーやポカミスであり、安全装置は補完装置として捉え、送迎に関わる職員の教育と訓練が不可欠と考えるのがいかかということなのですが、ちょっと私の感覚から言えば、自分の子供は豊田の児童センターに2人、あと埼玉県に引っ越してから、埼玉の幼稚園にダブりますけども、2人、4人通園させたわけですが、長井市の豊田児童センターだったんですけども、必ず休むときは保護者から園のほうに連絡をして、それをもう当然ということですから、園にいないということは休みだということですよ。ですから、普通は分かるはずなんです。ですから、休みの連絡がないのに来てないということはどうしたのでしょうかと、必ず児童センターから自宅のほうに、あるいは連絡先を通じて、連絡網ってありますから、確認があったのです。ですから、今回、何でこうなるのだろうと信じられなかったです。

あとは幼稚園のほうですが、私の自宅のところから自転車でうちの家内が送っていたんですけど、5分ぐらいのところ、ここも欠席すると

きは、出欠きちっと取りますので、それを連絡しなかったら向こうから電話来るんですね、今日どうしたんですかと。ですから、何でこういうことが、送迎バスの中に置き去りなんてことはあり得ないと。ということは休みだと思わわけですよね、それぞれのクラスの先生が。ですから、必ず確認を取るの、まず正直なところ、ここ二、三年のこういう事件は信じられなかったです。それほど保育園、幼稚園、忙しくてもうてんてこ舞いなのかと考えざるを得なかったです。

したがって、議員おっしゃるとおりで、どんなにすばらしい装置を設置しても、最終的にはその運用は人により行われまして、議員ご指摘のとおり、最終的に職員など、人による確認作業が必要不可欠だと思います。

市の児童センターの例を説明いたしますと、園児バスの使用後は消毒と忘れ物等の確認のため、運転手と添乗員のダブルチェックが行われていると。じゃあ、ダブルチェックしているって向こうも言っているんですよね。今回、事件を起こした園はどちらも言っています。でも、実際、それは口ばかりでやられてなかったというのが問題なのですけども。また、園の出入口で職員によるバス利用者の確認が行われておりまして、二重、三重の確認体制が児童センターの場合はしっかりとあると、私も確信しております。

置き去りが発生する可能性は極めて低いものと考えておったのですが、これも安心してられないということだと思います。

昨年7月、福岡県で発生した事件以降、各施設代表者による施設長会などの場で、担当課から注意喚起を行っておりますが、今後も引き続き、子供を預かることの重要性和使命感の啓蒙を続けてまいりたいと思います。

私のほうから以上でございます。

○浅野敏明議長 鈴木幸浩子育て推進課長。

○鈴木幸浩子育て推進課長 それでは、私のほうからは（１）から（４）まで、４点につきましてお答えをさせていただきます。

まず（１）本市では送迎バスでの園児置き去りの事案は過去になかったかという質問でございますが、各施設のほうに確認を取っておりますが、本市では現在までヒヤリ・ハット事例を含めまして、置き去りの事案につきましては発生していないという状況でございます。

（２）本市にある送迎バスの台数と安全マニュアルを作成している園の状況はにつきましてお答えをさせていただきます。

現在、市内の９つの保育施設のほうで11台の車両を使って送迎が行われております。議員からお話のあった痛ましい事故の後になります、国からの指示によりまして、市内の各施設のほうに直接確認を行っております、全ての施設におきまして、マニュアルの作成あるいはマニュアルはないんですけども、チェックシートをしっかりと準備しております、チェックシートのほうで毎回確認を行っているという状況でございます。

（３）安全マニュアルの園児の置き去り防止について記載しているところはあるかにつきまして、お答えをさせていただきます。

全てのチェックシートあるいはマニュアルに子供はもちろん、忘れ物等がないか確認すること、そういったことまで記載しているというようなことで確認をしている状況でございます。

続きまして、（４）政府は来年4月から送迎バスへの安全装置の設置を義務づけし、その仕様についてガイドラインを作成することですが、安全装置はどのようなものが想定されるかについて、お答えをさせていただきます。

今後、義務化される安全装置の具体的な仕様につきましては、現在、国土交通省のほうで検討しているという状況でございます、年内中に国のほうから指針が示されるということにな

ってございます。その基準を満たすものを設置を行ってまいりたいと考えております。

なお、全国で既に導入されている安全装置の例でございますが、車内の一番後部あるいは乗降口付近にブザーを設置しまして、園児の置き忘れといたしますか、そういったことがない状況を確認してからブザーを押すような仕組みのものが設置されているものが多いようでございます。

また、AIカメラにより車内を監視し、置き去りを感知するシステムなども開発されているようですので、先進的な事例も調査しまして対応してまいりたいと考えてございます。

私のほうからは以上でございます。

○浅野敏明議長 4番、鈴木 裕議員。

○4番 鈴木 裕議員 分かりやすい丁寧なご答弁ありがとうございます。

再質問ですが、政府のほうでは、送迎バスへの安全装置設置費用というのが大体20万円ぐらいと想定しているという情報がありまして、そのうち10分の9を国のほうで助成するというような、そんな話があるわけですが、そこで質問なのですが、その残り、仮に10分の9を国が助成するとして、残り10分の1について、バスの所有者負担になるかと思えます。市が所有しているバスについては、市で財政措置することになるかと思えますが、民間施設の保育園とか幼稚園保有のバスに対し、その10分の1負担はどのように市のほうで考えられるのか。民間施設のバスなので民間で負担するのか、それとも、いや、その辺は市がそこまで負担してあげますよと考えるのか、子育て推進課長、お考えあればご教示いただきたいと思えます。

○浅野敏明議長 鈴木幸浩子育て推進課長。

○鈴木幸浩子育て推進課長 お答えをさせていただきます。

確かに議員おっしゃるとおり、9割の補助という報道というのなされているようござい

ます。

また、違う報道では、設置の促進のために全額、国のほうで見るという報道もちょっとありまして、どれが正しい報道かというところはちょっとまだ今、整理ができていないという状況でございます。

いずれにしても、国のほうから、まだ詳しい上限であったり、そういった補助の内容であったりというところが来てないという状況でございますので、そういったところが国のほうから示された段階におきまして、近隣の自治体の状況なども把握しながら、検討していきたいと考えてございます。

○浅野敏明議長 4番、鈴木 裕議員。

○4番 鈴木 裕議員 先ほど市長からは、置き去りにする、そういったこと自体がなぜ起きるのか、とても信じられないというお話でございました。私も全くそのとおりでありまして、まず運転手、乗車された方の命を守るという、その交通安全の面もありますけれども、乗車された方が降りるまで責任を持って管理するというのが、運転手の務めでないかなと思うわけです。

ですから、何でこんなポカミスをやって、そして、国の財源までつけて、補助装置までつけてやんなきゃなんないんだろうと思うぐらい、こんなことしなくてもいいんじゃないかと思うぐらいのミス、ポカでないかなと思っております。

しかしながら、こういった事件があったものですから、国のほうとしても動かざるを得ないということで、言ってみれば、税金の半分無駄遣いな事業でもないかなみたいな、そんな感じもしているんです。

ですので長井市においては、こういった事案が今まで過去にないということですので、また、国のほうで安全管理マニュアルの作成などもしてくださるようですから、それらを参考にして、

ぜひ長井市ではこういった事故、事件が起こらないように祈るといいますか、期待したいと思います。

それから、先ほど子育て支援課長から……。

(「子育て推進課長」の声あり)

○4番 鈴木 裕議員 失礼しました。子育て推進課長から、安全装置について、現在考えられているようなご説明をいただきました。私のほうでもちょっと調べてみたので、このような装置があるようだということで、ご紹介させていただきたいと思います。

園児の置き去りを未然に防ぐための安全装置は、多くのメーカーが今、開発を急ぎ、実証試験も進んでいるようです。あるメーカーは、通園バスの後部にカメラと通信機を設置し、取り残された園児がカメラに映るとAIが感知し、自動で園の担当者にメールが送信される仕組みになっているとのこと。

また、別のメーカーでは、カメラには死角があることへの対応として、無線LAN、WiFiを使い、電波を送受信する2台の機器を、バスの前方と後方に設置、園児の僅かな動きや呼吸で電波の反射の変化を読み取り、園児の存在を検知できる仕組みができています。

また、ある車載部品メーカーでは、AI搭載のカメラと警報ブザーを組み合わせ、エンジンを切った後に天井のカメラが人を感知すると、車外のブザーが鳴るシステムを発売されているとのこと。

また、自動車盗難防止装置メーカーが開発した安全装置は、エンジンを切るとブザーが鳴り響き、運転手が最後尾のスイッチを押すとようやく音が止まる仕組みで、さらに施錠後に人の動きがあると超音波センサーなどが検知し、飛行機のエンジン近くにいるような、120デシベルの音の大きさにアラーム音が周囲に響き渡る機能があるといえます。

このようなものがございますので、本市で安

全装置を検討する際は、いろんな情報を収集していただいて、最も適した安全装置を導入するようにお願いし、質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

今泉春江議員の質問

○浅野敏明議長 次に、順位10番、議席番号14番、今泉春江議員。

(10番今泉春江議員登壇)

○14番 今泉春江議員 日本共産党の今泉春江でございます。

私たち日本共産党は、次の統一地方選挙に向けて、全国の候補予定者や議員が取り組む共通の目標を発表しました。国政に関わる問題でも、住民の福祉の増進という自治体の本旨に立った地方政治の拡充が重点です。

地方政治の課題は、地域によってそれぞれですが、全国共通の課題3点と市政について合わせて5点について質問します。

第1は、保健所の体制拡充と公衆衛生の再建について質問します。

新型コロナウイルス感染拡大は、日本の医療、福祉、公衆衛生の体制がいかに脆弱なものであったかを浮き彫りにしました。全国どこでも、保健所や公的医療機関を切り縮めてきました。

保健所は1990年の850か所から2020年には469か所とほぼ半分に減らされてきました。職員も1990年の3万5,000人から2017年度は2万8,000人と減らされています。保健所と職員を減らし過ぎたことが、コロナ禍での業務パンクを引き起こす最大の要因になっています。かつての日本医師会会長、横倉氏が指摘をしています。

以前には、長井市にも保健所があり、様々な手続や食中毒など、命を守る上で敏速な対応ができていました。しかし、現在は米沢市の置賜